

データでみる軽トラ市

(その19)

愛知大学 三遠南信地域連携研究センター長 戸田敏行
地域政策学部教授

「軽トラ市」のトライアル

このシリーズの前は昨年8月であるので、久々である。もっとも、昨年10月に第7回全国軽トラ市が長野市篠ノ井地区で開かれており、本誌では昨年11月号で紹介されている。今回は、軽トラ市のトライアルとして、最近学生と行っている事業と、これからの全国的な軽トラ市イベントについて紹介したい。

○学生の軽トラ市トライアル

まずは、学生のトライアルである。軽トラ市は極めて柔軟性の高いまちづくり事業であり、様々な発展要素を含んでいる。現在、私のゼミ生たちは地元である本学と共同研究として、3つのテーマ別活動を行っている。その第1は、軽トラ市相互の連携である。全国の軽トラ市では同じ時間に実施されているところがあり、この相互中継が成り立つのである。軽トラ市は、なんと言っても人間が主役であるので、軽トラ市の人をつなごうということである。具体的には、軽トラ市に派遣した学生がDJよろしく、相互の軽トラ市から出店店舗をインタビューして中継、中継された別の軽トラ市で商品の試食もするのである。

今回実施したのは、昨年全国大会を実施し

た長野県篠ノ井軽トラ市と、我々のホームである愛知県新城軽トラ市との中継である（写真1、2）。この中継には、将来の参画を見越して長野・東海地域のディーラーからも参加いただいた。将来的に全国の軽トラ市が結ばれば、軽トラ市を通して知らない地域の魅力が伝わり、商品を購入し、また観光に結びつようになるだろう。これに、各軽トラ市に近いディーラーの皆様が参画されると地域のコミュニティも一層強力となるのではないかと。軽トラ市の魅力を対外的に伝え続けることは、その軽トラ市の魅力を磨きこむことにもなる。

第2のトライアルは、軽トラ市が位置する地域のブランド化を、軽トラ市を用いて促進することである。軽トラ市で地場産品が販売されることは基本であるが、ここでは一歩進んで、絞り込んだ商品から地域ブランドを創り上げようというものである。これも具体的に紹介してみよう。新城軽トラ市の北部、東栄町には雲母の鉱山がある。ポイントは、その雲母がセリサイトと呼ばれる細密な鉱物であることである。この鉱山のセリサイトが、世界最高級のファンデーションの材料であり、これなしには欧州・日本の化粧品が成り立たない。このセリサイトに着目して、コスメ商

品の開発と「美」をコンセプトとする地域のブランド化が始まっている。そこで実施したのが、新城軽トラ市でオリジナルコスメの実体験と地域紹介によって地域ブランド化を促進しようというものである（写真3）。こうした地域ブランド軽トラが全国から集まれば、誠に効果の大きな地域創造事業となるだろう。

そして、第3が多層的な方々の参加促進である。軽トラ市の魅力は人の交流であるが、それも様々な人々の交流の場であることが必要である。まずは、現在軽トラ市に少ない、若者の参加を促進するために、学生が音楽を提供する試みから始めている（写真4）。軽トラ市には、既に福祉系事業からの参画も多いことから、SDGsの「誰一人取り残さず」を目標とした交流創造も考えるのではないと思う。

○軽トラ市の全国催し

次に、こうしたトライアル発表の場となる、軽トラ市の全国的イベントであるが、



写真1 篠ノ井からの学生中継



写真2 篠ノ井の商品を新城で試食する

近々のものについて案内したい。

まずは、JAPAN MOBILITY SHOW 2023（JMS）である。ご承知の様に、従来の東京モーターショーが名称を変更したものであ



写真3 コスプレを体験する来街者



写真4 歌う愛知大学アカペラサークル

る。前回の2019年には東京ビッグサイトの前面で軽トラ市が行われたが、今回も「軽トラ市 in JMS2023」と銘打った軽トラ市が開催される。日時は、11月3日(金)10時～16

だろうと、筆者には思っている。詳細は、全国軽トラ市情報 (<https://k-truck.jama.or.jp/>) をご覧いただきたい。また、ご来場の際には、お声がけ頂きたい。

時である。全国の軽トラ市からの出店とともに、軽自動車メーカー、ディーラーからの出店があり、我々愛知大学も産学共同事業として出店している。もう一つは、第8回全国軽トラ市 in 浜松である。12月3日(日)が全国軽トラ市であり、浜松駅前の道路も封鎖した大規模な軽トラ市と関連事業が実施される。前日2日(土)には、筆者がコーディネートを務めるシンポジウムも行われる。今回は、「軽トラ市とまちづくり」がテーマであり、東海地域で軽トラ市が実施される静岡県浜松市、磐田市、掛川市、愛知県新城市の軽トラ市代表者と4市の市長さん、そして軽自動車業界の代表者にもご登壇いただく。コロナを越えて、「軽トラ市をまちづくりのスタンダードに」を、打ち出す時期にある